

ミュージアムニュース



広島県立歴史博物館
Hiroshima Prefectural Museum of History
蔵戸千軒ミュージアム

第145号



くさどっきー せんちゃん

Hiroshima Prefectural Museum of History

秋の展示

歴史から学ぶ防災

ー未来へつなぐ災害の記憶ー

会期 令和7年 9月19日(金)～11月24日(月・休)



広島県防災キャラクター「タスケ三兄弟」

江戸時代の砂防堰堤 堂々川六番砂留(福山市神辺町)

令和7年度秋の展示では、「歴史から学ぶ防災ー未来へつなぐ災害の記憶ー」として、広島を中心にこれまで発生した災害の歴史や、人々が災害にどのように備えてきたのかなどを紹介합니다。また、私たちが未来の災害に対してどのように備えるべきかについても取り上げます。

今回の展示が、防災について日頃の備えを見直すきっかけとなり、災害の記憶や教訓を未来へ伝える一助となることを願っています。

展示の紹介は次のページへ ▶▶

第1章 ひろしまの災害の歴史

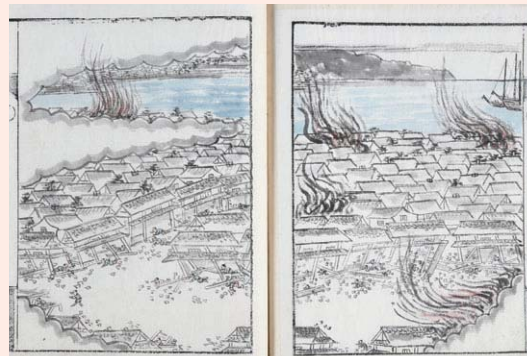
菅波信道一代記（広島県重要文化財）

備後国安那郡川北村（現在の福山市神辺町）の菅波信道（1792～1868）が記録した全32冊にも及び自叙伝です。

この中には災害や事件など、当時の社会的な出来事についても詳しく記されており、安政の大地震（1850年代）に関する記述もあります。

安政南海地震（1854年）で被害を受けた蔵を建て直したことや、その後も余震が続いたこと、また安政江戸地震（1855年）当時の江戸の様子などが記録されています。

第1章では、広島県の風土と災害の関係について解説し、あわせて近世から近現代にかけて地域で経験した自然災害について、関連する文献や写真とともに紹介します。



『菅波信道一代記』から安政江戸地震の様子



大正8年の福山市の被災写真
（濱本鶴寛著『福山水害誌』から転載）

大正8年（1919）7月の豪雨災害の被災写真

大正8年7月、広島県内は記録的な豪雨に見舞われ、広島市の太田川や福山市の芦田川で洪水が発生するなど、県内各地に甚大な被害をもたらしました。

写真は福山市での被災状況を撮影したものです。芦田川の堤防が決壊し、福山市では死者17名、家屋101戸が流失するなどの被害が出ました。

この災害を受けて、洪水対策として昭和3年（1928）から芦田川の河川改修工事が始まり、その過程で中世の港町、草戸千軒町遺跡が発見されました。

第2章 日本各地で起こる災害

第2章では、共催である国立研究開発法人防災科学技術研究所（茨城県つくば市）が制作したパネルを中心に、阪神・淡路大震災をはじめ、日本各地で発生した災害について紹介します。

野島断層（兵庫県淡路島、天然記念物）
写真提供：北淡震災記念公園



第3章 今も残る災害の痕跡

第3章では、過去の人々が災害に備えて築いた堂々川の砂留群（1ページの写真）などの構造物や、自然災害の記憶や教訓を未来に伝える「災害伝承」（自然災害記念碑や地名など）について、広島県内の事例を紹介します。

助磊

三次市三和町の美波羅川沿いにある、高さ約2m、幅4m四方の石積みの塚です。洪水時の緊急避難場所として、地域の人々によって築かれました。

洪水の際にこの助磊に登り、中央の木に体を縛り付けて命を守ったという伝承が残されています。



助磊（三次市史跡）

第4章

防災・減災を考えよう！

第4章では、「自助」・「共助」・「公助」をテーマに、防災グッズや自然災害への備え方、広島県の防災への取組などを紹介します。

平成7年(1995)の阪神・淡路大震災の教訓から、「防災」(災害を防ぐ)に加え、「減災」(被害を最小限に抑える)という考え方が広がりました。私たち一人ひとりが、防災・減災について考えてみましょう。



防災グッズ(防災リュック、食缶などの非常食)

現在では多くの防災グッズが販売されており、非常用持出し袋や防災リュックなどを店頭で目にする機会が増えてきました。

広島県内では、近代に陸軍や海軍の施設が置かれていたことから、軍用の非常食として缶詰などの製造が盛んな時期もありました。現在も様々な非常食が県内で製造されています。

★展示の内容を一部御紹介しましょう！

防災教育の重要性 —津波てんでんこ—

「てんでんこ」は、「各自」・「ばらばらに」という意味で、東北地方の方言です。三陸地方(岩手県など)では明治29年(1896)の明治三陸地震による津波の教訓から、「津波が来たら、てんでんばらばらに早く逃げなさい」という「津波てんでんこ」の教えが伝えられてきました。

一見すると「てんでんこ」は自己中心的な行動のようにも思われますが、それぞれが「自分の命は自分が守る」という責任を果たし、「他の人たちも同じように行動している」という互いの信頼があってこそ成り立つものであるといえます。

岩手県釜石市では、平成16年(2004)から「津波てんでんこ」の考えを小・中学校の防災教育に取り入れてきました。その結果、平成23年(2011)の東日本大震災では、多くの子供たちが避難し、命を守ることができました。災害の教訓を未来に伝えていくことの大切さが分かります。

豪雨・暴風体験学習アトラクション: HERASEON(ヘラセオン)

モニター画面の中で豪雨や暴風を疑似体験できるアトラクションです。一般財団法人日本気象協会が開発し、各地のイベント会場で実施されています。

体験者は、①雨のみが急激に激しく降り出すパターン、②雨と風がどちらも強くなるパターンの2種類を体験することができます。

濡れたり風で飛ばされたりする心配がないため、子供たちも安心して参加でき、防災への意識を楽しみながら高めることができます。



写真提供: 日本気象協会 ※写真はイメージです。



秋の展示 関連行事

石碑から
どんなことが
分かるんだろう？



【開催記念講演会】無料・申込み不要

▶ 第1回「石碑からたどる広島県の災害史」

日時 | 令和7年10月4日(土)午後2時～午後3時30分

講師 | 熊原 康博 氏 (広島大学大学院人間社会科学研究科教授)

▶ 第2回「自然災害に負けない未来へ:防災の第一歩」

日時 | 令和7年11月1日(土)午後2時～午後3時30分

講師 | 内山庄一郎 氏

(防災科学技術研究所 社会防災研究領域総合防災情報センター自然災害情報室 室長)



広島県内に残る自然災害伝承碑



【展示解説会】入館料が必要です。

日時 | 令和7年9月21日(日)、10月19日(日)

いずれも午後1時30分～午後2時30分

解説 | 当館学芸員

◆ ワークショップ ◆



1 砂防出前講座

無料・事前申込みが必要

(各回 24名・先着順)

日時 | 令和7年9月20日(土)

①午前11時～、②午後1時～ (それぞれ1時間程度)

講師 | 広島県土木建築局砂防課職員

対象 | 小学生以上(小学生は、保護者同伴)

※内容は小学校高学年から中学生向け



砂防出前講座 砂防出前講座
①午前11時～ ②午後1時
※受付:8月19日(火)10:00～

コウスケ(タスケ三兄弟)

QRコードから
申し込んでね!



消防車も
来るよ!



ジスケ(タスケ三兄弟)



2 防災ワークショップ

無料・申込み不要

日時 | 令和7年10月18日(土)

午前10時～12時

協力 | 福山地区消防組合消防局

※詳しくはホームページで!



3 防災教室 ※無料・事前申込みが必要

「土は強くもなり弱くもなる!
土砂崩れがなぜ起きるのか
一緒に考えよう」

(各回30名・先着順)

日時 | 令和7年11月22日(土)

①午前10時～、②午後1時～ (それぞれ1時間程度)

講師 | 檀上 徹 氏 (防災科学技術研究所主任研究員)

対象 | 小・中学生(グループワークあり)

土を使って
実験するよ!



キョウスケ
(タスケ三兄弟)



防災教室 防災教室
①午前10時～ ②午後1時～
※受付:8月19日(火)10:00～

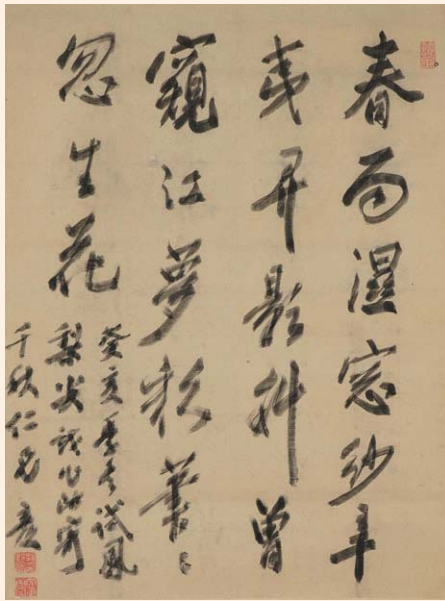
頼山陽史跡資料館 展示の御案内

頼山陽史跡資料館では、今年度も様々な展示会を企画しています。
ここでは9月から開催する展示を御案内します。

特集展 江戸文化と文房具 令和7年 9月6日(土)～10月19日(日)

文房具といえば、何を思い浮かべますか？鉛筆、ボールペン、万年筆、ノート…、色々ありますが、江戸時代の文房具の主なものとしては「筆」「墨」「硯」「紙」が挙げられます。江戸時代と現代で、使われる文房具は変化していきますが、人々の生活や文化に欠かせないものであることに変わりはありません。

頼山陽史跡資料館には、書画や書状等のほか、文房具等の器物も数多く残されており、今回の展示では、広島頼家に伝わる文房具や関係する資料から、当時の人々と文房具の関わりを紹介し、使用した文房具に特徴がある書画作品(①)や、遺愛の品として大事に守られてきた文房具(②)などの資料を通して、江戸時代の文化の一端を感じていただければと思います。



① 柴野栗山筆 五言絶句「寄春水五絶自然筆書」
(重要文化財「広島頼家関係資料」)

幕府儒官である柴野栗山の書。「鳳梨」の筆(アダンの実を用いて作られた筆)で書かれています。



② 硯「清慎勤和」
(重要文化財「広島頼家関係資料」)

広島頼家に伝わる硯。硯蓋には朱漆で「清慎勤和」の字が書かれています。

- 会 場 / 頼山陽史跡資料館(広島市中区袋町5-15) TEL:082-298-5051
- 時 間 / 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 休 館 日 / 月曜日(祝休日は開館し、翌平日休館)
- 入 館 料 / 一般200円(160円)、大学生150円(120円)、
65歳以上・高校生以下無料 ※()は団体料金(20名以上)
- 解 説 会 / 9月23日(火・祝) 10月11日(土)
いずれも午後1時30分～(通常の入館料が必要です)



▲頼山陽史跡資料館
ホームページ

博物館アラカルト 33

博覧会に出品された広島の赤いやきもの

●新しい時代の幕開けと博覧会時代

令和7年(2025)4月13日に開幕した大阪・関西万博は、連日多くの来場者で賑わいをみせています。万博は「万国博覧会」の略称で、正式名称は「国際博覧会」(以下「万博」という。)です。みなさんがイメージする万博は、どのようなものでしょうか。簡単に表現すると、世界中の国々が自国の技術や文化を発信する国際的な展示イベントです。

その歴史は古く、嘉永4年(1851)に第1回となる万博がイギリス・ロンドンで開催され、日本は慶応3年(1867)のフランス・パリ万博に江戸幕府が初めて参加しました。とりわけ、瀬戸(愛知県)、九谷(石川県)、有田(佐賀県)で焼かれた陶磁器は、海外の万博にお



第1回内国勧業博覧会 錦絵 (東京国立博物館研究情報アーカイブズから転載)
「東京名所之内明治十年上野公園地内国勧業博覧会開場之図」

「内国勧業博覧会」を東京・上野公園で明治10年(1877)に開催しています。

今回の博物館アラカルトでは、この第1回内国勧業博覧会に広島県から出品された石見系陶器を御紹介します。

●明治という新しい時代に鮮烈デビュー

石見系陶器とは、現在の島根県西部(石見地方)を中心に活躍した石見焼の職人が、島根県外に出稼ぎや最終的には移住して焼いた壺・甕・鉢・徳利など器の総称です。広島県北部の庄原市や三次市、南部の東広島市や三原市などを中心に、明治初期から昭和40年代後半頃まで窯が操業していたことが近年の調査で明らかになっています。

その特徴は何とんでも「赤色(正確には赤褐色)」に発色した釉薬がかけられていることです。同じ釉薬を瓦にコーティングしたものを「赤瓦」と呼び、東広島市内を走行する山陽新幹線の手窓からは、田園風景と赤瓦の景色が目を引きま

いてその美しさで世界を魅了し、人気を博しました。明治維新後、明治政府は国内の産業振興と海外への輸出を積極的に進めるため、万博をモデルにした「内国勧業博覧会」を東京・上野公園で明治10年(1877)に開催しています。

この「赤」の秘密は、釉^{うわぐすり}の来待釉^{きまちゆう}の技術にあります。明治時代中頃、石見焼で使われていた来待釉の技法をもとに東広島市内（西条地区）で改良された釉薬が開発され、「西条来待」として広く流通しました。この釉薬は、もとは灰色をしています。登り窯の中で1,300度の高温で長時間焼成させることで独特の赤褐色に発色し、溶けた粒子が表面全体をガラス状にコーティングすることで艶やかな仕上がりとなります。一般的な黒瓦（いぶし瓦）は、冬季の厳しい寒さによって、瓦に浸透した水分が凍結と融解を繰り返すことで割れることがあります。それに対して、耐寒性・耐酸性に優れた赤瓦は、海辺の潮風、山間の雪や低温に耐える「丈夫さ」をアピールポイントとして販路を拡大しました。さらに時代が下って大正時代になると、鉄道網の発達により赤瓦が京阪神方面まで広まり、洋館建築にも調和する屋根材として好評だったようです。

また、来待釉の特性から、他の産地の甕^{みすかめ}に比べ防水性にも優れていたため、上水道が発達する以前は石見系陶器の甕が各家庭の台所で水甕として利用されていました。現在では、畑の水ためとして埋められているのを見かけます。

大阪・関西万博では、「空飛ぶクルマ」など、近未来を象徴する技術に触れることができますが、一方で、今回御紹介したような明治・大正・昭和の暮らしを支え、形づくってきた広島県産の「赤い」やきものにも、目を向けてみてはいかがでしょうか。



広島県内の石見系陶器窯分布図

- ①清水窯跡、②山本窯跡、③中村窯跡、
④濱田窯跡、⑤小林窯跡、⑥川本窯跡

向田裕始2017「広島県における石見陶器の生産活動について」一部改変



赤瓦と田園風景（東広島市）



石見系陶器 木呂田焼狛犬
（広島県立歴史民俗資料館提供）



博物館 掲 示 板



講演会 (博物館大学)

※時間はいずれも午後2時～午後3時30分

回 数	演 題	講 師	開 催 日
第4回	山陽鉄道の ^{えんしん} 延伸と「広島」	近畿大学短期大学部 教 授 井 田 泰 人 氏	8月23日(土)
第5回	石碑からたどる広島県の災害史	広島大学大学院人間社会科学研究科 教 授 熊 原 康 博 氏	10月 4日(土)
第6回	自然災害に負けない未来へ： 防災の第一歩	防災科学技術研究所 社会防災研究領域 総合防災情報センター 自然災害情報室室長 内 山 庄一郎 氏	11月 1日(土)

公 開 講 座

※時間はいずれも午後2時～午後3時30分

共 催	演 題	講 師	開 催 日
備陽史探訪の会	福山、歴史の焦点 ー原始古代から福山市の誕生までー	備陽史探訪の会 会 長 田 口 義 之 氏	8月 2日(土)
備陽史探訪の会	備後の中近世城郭	立命館大学 准教授 岡 寺 良 氏	9月27日(土)
芸備友の会	芸備 神楽紀行	広島県立歴史民俗資料館 学芸員 田 邊 英 男 氏 (エルダースタッフ)	11月29日(土)

近 世 文 化 展 示 室

会 期 ▶	6/20(金) ～8/17(日)	8/22(金) ～10/19(日)	10/24(金) ～12/21(日)	12/26(金) ～2/23(月・祝)	2/28(土) ～4/26(日)
菅茶山の世界	シン「菅茶山 関係資料」②	菅茶山と白河藩	菅茶山と後継者	長寿を寿ぐ	菅茶山と 対外関係資料
守屋壽 コレクション	江戸の風景	長崎とオランダ・ 中国	朝鮮通信使と 琉球使節	蝦夷地調査と 地図	ペリー来航と幕末

ミ ニ 展 示

6/17(火) ～8/31(日)	9/2(火) ～10/26(日)	10/28(火) ～12/27(土)	1/2(金) ～2/23(月・祝)	2/28(土) ～4/26(日)
型染KATAZOME ー絣ボランティアの成果ー	中世文書を読む⑤ 杉原盛重の文書①	草戸千軒町の お墓の世界	須恵器で語る 加茂谷の古墳時代	中世文書を読む⑥ 杉原盛重の文書②

広島県立歴史博物館 ミュージアムニュース 第145号

編集・発行

令和7年8月1日



〒720-0067 広島県 福山市 西町二丁目4-1
TEL 084-931-2513 FAX 084-931-2514
e-mailアドレス rhksoumu@pref.hiroshima.lg.jp
ホームページ <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/rekishih/>
X(エックス) https://twitter.com/hiroshima_prhk



▲ ホームページ



▲ X(エックス)